

## 人材養成システム改革構想・概要

- 提案構想名 「生命科学研究独立アプレンティスプログラム」
  - 総括責任者名 「鷺田清一」
  - 提案機関名 「大阪大学」
- (実施予定期間： 平成20年度～平成24年度)

### 機関の現状

大阪大学における生命科学研究は、10以上の部局において展開されており、その研究内容は、神経科学、免疫学、蛋白質研究、発生学、再生医学など、多岐にわたり、それぞれの分野において世界的にトップレベルにある。また、生命科学・生命工学研究推進機構を中心に、各部局の連携も十分に図られており、個別的にも全体的にも本邦におけるトップランナーに位置づけられている。これまでも、若手研究者の育成には積極的に取り組んでおり、グローバルCOEプログラムや21世紀COEプログラムなどの外部資金により、数多くの特任教員や特任研究員を雇用し、次世代を担う人材の登用ならびに育成をおこなってきた。また、複数の部局において、すでに独自の独立准教授制度を採用しており、学内外に対して、多くの人材を輩出している。しかし、大阪大学だけではないが、組織全体として、若手研究者の独立ポジションの相対的な少なさや、そのために、有為の人材が国外に滞留してしまっているという現実は如何ともしがたい状況にある。

### 人材養成システム改革・若手研究者育成の構想

独創的かつチャレンジングなテーマを展開できる30代の若手研究者を特任准教授として採用する。そして、「独立研究アプレンティス（見習い）」と位置づけ、採用された若手研究者に対して、完全に研究室を運営できるようになるための能力の開発を、研究の独自性を担保しながら十二分に支援する。アプレンティス研究者、それを個別に支援する親講座、および、両者から独立した、生命科学系教員による独立支援運営委員、からなるコンソーシアムを構築し、多角的に支援ならびに指導をおこなう。このような運営形態により、独立させるが孤立させることなく、競争的ではあるが安心して研究に専念できる環境を提供する。特に、外国の研究機関から帰国し、我が国において新たに研究室を立ち上げたいという強い意志をもった若手研究者を優先して採用する。研究環境としては、既存の設備の利用から開始するが、本提案の期間内に、完全に独立した研究環境を自ら構築できるように支援する。最終年度の評価において十分な業績と研究室運営能力が認められた場合は、テニユアである独立准教授あるいは教授として採用する。本制度により、大学院生や研究員に対して、新たな魅力あるキャリアパスを提示していく。

### ミッションステートメントの概要

有望な若手研究者の独立支援を強力に推進するものであり、とりわけ、帰国して研究室を立ち上げる研究者を優先する。また、小さな研究テーマに対して小ぢんまりした研究成果を出す研究者ではなく、生命科学の大命題に果敢に挑戦するような研究者を育成していくことを主眼とする。3年目の評価において、論文発表における数値目標を設定することは、これら二つの目的に対して大きな制限をかけるものである。したがって、3年目の評価は、論文発表ではなく、研究の進捗状況および研究室の整備状況に対して、外国人を含めた外部評価委員会と独立支援運営委員会が、責任をもって、その将来性を見極めるための「目利き」をおこなう。

5年目の業績評価は、本提案を運営する各部局におけるテニユア教授および准教授ポストの採用基準を十分に上回っているかどうか、また、十分な研究室運営能力を身につけたかどうか、を、指標に、テニユア・ポストに採用するかどうかを決定する。研究業績としては、インパクトファクターが10以上の雑誌における複数の論文発表を一応の基準とするが、研究の進捗状況により、当該年度に間に合わなくとも、近い将来に同等の業績をあげる見込みがある場合は、十分に勘案する。基準に満たない場合は、自主財源から、再就職のため一年間の猶予期間を設ける。





# 大阪大学生命科学若手研究者独立支援体制

生命科学・生命工学研究推進機構

## 若手研究者独立支援コンソーシアム



「親講座」教員

- ・ 関連ある研究分野
- ・ 客観的評価
  - ・ 運営に関する助言
  - ・ 備品などの共有
  - ・ 研究の独立性および自立性の確保

大阪大学生命科学若手研究者独立支援運営委員会

- ・ 学外研究機関の委員
- ・ 学内他部局の委員
  - ・ 参加部局の親講座以外の委員
  - ・ 親講座への助言
  - ・ 大所高所からの指導



若手研究者、「親講座」、独立支援運営委員会からなるコンソーシアムを構築し、若手研究者の独立支援をおこなっていく。



# 生命科学研究独立アプレンティスプログラムの内容

## 大阪大学における生命科学研究 6部局からの部局横断的提案

- 基礎医科学研究人材育成プロジェクト（医学系研究科）
- 先端融合生物学研究者育成プロジェクト（理学研究科）
- 蛋白質科学基礎研究次世代リーダー育成プロジェクト（蛋白質研究所）
- 健康サイエンス人材育成プロジェクト（薬学研究科）
- 生命歯科医学若手研究者育成プロジェクト（歯学研究科）
- 生命機能研究者育成プロジェクト（生命機能研究科）

・国際公募  
・参加6部局による一次選考  
各部局から2-4名を推薦し採用

独立支援運営委員会による最終選考  
部局あたり 1~2名      総数 6~12名

採用後における実際の運営  
独立准教授としての採用  
独立した研究テーマによる研究の遂行  
完全に独立するために必要なスキル・備品  
コンソーシアムの運営

「親講座」の設備を共有  
外部資金の確保  
備品の充実  
完全独立へ

テニユア・ポジションへの登用  
高い目標の設定  
常勤の教授、あるいは、独立准教授ポストへの採用  
テニユア・ポジションを獲得できなかった場合は1年間の猶予期間

## ミッションステートメント

- 提案構想名 「生命科学研究独立アプレンティスプログラム」
- 総括責任者名 「鷺田清一」
- 提案機関名 「大阪大学」  
(実施予定期間： 平成20年度～平成24年度)

### (1) 人材養成システム改革構想の概要

研究室運営やスタートアップ資金の獲得など、若手研究者が完全に独立した研究室を立ち上げる際に必要なシステムの構築が、現行では、欠如していると言わざるをえない。本提案では、研究室の立ち上げに必要な能力と独自のテーマを持った若手研究者を、ハイレベルな独立のためのアプレンティス（見習い）と位置づけ、完全に独り立ちできるよう、指導・支援と準備期間とを与えるものである。そのために、採用された若手教員と、個別指導をおこなう親講座の教員、および、提案全体を見渡す支援運営委員からなるコンソーシアムを構築し、研究テーマの独自性を保証しつつ、十分な指導と支援をおこなっていく。このコンソーシアムでは、研究面では適度なプレッシャーを感じながらも運営上は安心して研究を遂行できるような環境を提供する。大きな研究テーマに挑戦する足腰の強い若手研究者を育成することにより、大阪大学のみならず、我が国における次世代の生命科学研究のレベルアップに寄与することをめざす。

### (2) 3年目における具体的な目標

初年度において、帰国すぐの若手研究者を優先した選考をおこない、12名の採用を予定している。同時に、コンソーシアムのメンバーを確定し、積極的な指導と支援を開始する。帰国者を優先的に採用する予定であることから、時間的な問題が生じる可能性はあるが、できるだけ迅速な研究室の立ち上げをおこなう。3年目までには、各研究室における基本的な備品の配備、十分な外部資金の獲得、研究ユニットの構築、などを完了する。公開シンポジウムを開催し、外国人研究者を含む委員会による中間評価をおこない、研究の進捗や方向性についての積極的な助言をおこなう。また、本振興調整費による研究支援経費は、他の研究費の取得状況を考慮して再配分する。

### (3) 実施期間終了時における具体的な目標

小さくまとまった論文の発表ではなく、生命科学研究の本質にせまるような研究成果を目標とする。インパクトファクター（IF）が論文の質を決めるものではないが、IFが10以上の雑誌に複数の論文を掲載することを目標とする。ただし、採用から最終年度の業績評価まで正味4年程度の期間しかないことを考慮し、研究の進捗状況やテーマの独創性なども勘案して、テニユア・ポストへの移行を決定する。少なくとも採用した若手研究者の半数をテニユア・ポストに採用する。また、大阪大学だけでなく、他の研究機関への昇任も積極的に推奨していく。

### (4) 実施期間終了後の取組

実施期間終了後もコンソーシアムを存続させ、分野横断的研究の実働部隊として、総長に直属する生命科学・生命工学研究推進機構の下、活動を継続する。関連部局が最大限の配慮を払い、テニユア・ポストに採用された研究者が、新たなコンソーシアムの中心メンバーとなり、若手研究者の良きモデルとして活躍できるような体制を構築する。また、大阪大学だけでなく近隣の研究組織にもコンソーシアムの枠を拡大し、大阪地区の生命科学研究のさらなる結集をめざしていく。

### (5) 期待される波及効果

魅力的なキャリアパスを提示することにより、内外の大学院生やポストドクレベルの研究者に大きな夢と希望を与えることができる。また、このような弾力的かつ柔軟性の高いモデルシステムを構築することにより、学内での部局間交流や組織改編が促されるのみでなく、近隣の研究組織をも巻き込んだ新たな組織作りに発展させることができる。